

# 《必要な医療機能》令和元年度第1回調整会議 議論の状況一覧(グループワークでの到達点)

資料7

## ○構想区域ごとの議論の状況

構想区域	必要な医療機能についての議論の状況と今後に向けたキーワード
区中央部	<p>「流出入が多いため他圏域も含めた議論が必要」、「他圏域も含めると回復期、とくに回りハは充足」、「高齢患者の増加もあり、慢性期の病床は不足」という3点について意見が一致</p> <p>キーワード ①他圏域を含めた機能分化の議論 ②他圏域も含めて回復期は充足 ③慢性期病床の不足 ④地域包括ケア病床の増床は必要？</p>
区南部	<p>「区南部は自己完結して機能を果たしており、病院、病床を増やす必要はない」、「介護医療院やかんたき等、受け皿が十分ではない患者のための施設や在宅の質の充実が必要」という2点について意見が一致 「高度急性期、急性期病院が実質的に回復期の機能も担っていること」「地域包括ケア病床の増床が必要かどうか。」については今後も議論が必要</p> <p>キーワード ①全体として自己完結 ②高度急性期、急性期が回復期の機能を分担 ③地域包括ケア病床は不足しているか？ ④介護医療院、かんたき ⑤在宅の質の向上</p>
区西南部	<p>急性期班で、「慢性期の病床の不足」、回復期班で「療養病棟の重要性」について意見が出たが、圏域の意見として、必要な医療機能の議論はまとまらなかった。</p> <p>キーワード ①慢性期機能(療養病床)についての議論</p>
区西部	<p>急性期班からは、「中野・杉並での急性期の不足、慢性期の不足」について意見が出た。一方、回復期・慢性期班からは「夜間救急の不足」について意見が出たが、全体としての議論は深まらなかった。</p> <p>キーワード ①新宿と中野、杉並を分けた議論 ②中野、杉並の急性期は不足？ ③夜間救急体制 ④慢性期の増床は必要？</p>
区西北部	<p>急性期班では「回復期の不足」、回復期班では「区ごとの機能の不足(高度急性期・急性期が練馬・豊島・北で不足、回復期が豊島で不足、練馬でもやや不足)」について意見があった。 意見交換で、回復期の不足について、「練馬・板橋・豊島で不足」とする急性期班の意見と、「練馬では充足、不足の意見が両方あり、板橋では充足している」とする回復期班の意見が食い違った。</p> <p>キーワード ①各区での回復期病床の不足について意見の食い違い</p>
区東北部	<p>回復期班から、「回復期は、区ごとに偏在があり、区中央部のポストアキュート・サブアキュートの受け皿となっているため、必ずしも充足してはいないのでは」、という意見があった。 意見交換では、「病床機能に際立った過剰、不足はないが、小児、周産期、緩和ケア等、局面で不足を感じる」という点で、意見が一致</p> <p>キーワード ①際立って過剰・不足な機能はない ②小児、周産期、緩和ケア等局面で不足 ③回復期は区ごとに偏在し、不足している？</p>
区東部	<p>急性期班・回復期班とも「不足する医療機能はない」「回復期が不足(急性期班は将来的に)」という意見が出た。また、区ごとの違いを踏まえた意見が出た。個別には急性期班で「療養病床が不足」との意見も出たが、全体での意見交換に至らず、圏域の意見としてはまとまらなかった。</p> <p>キーワード ①不足する医療機能はない？ ②回復期病床は不足？ ③療養病床は不足？ ④区ごとの違いを踏まえた議論</p>

《必要な医療機能》令和元年度第1回調整会議  
議論の状況一覧(グループワークでの到達点)

資料7

○構想区域ごとの議論の状況

構想区域	必要な医療機能についての議論の状況と今後に向けたキーワード
西多摩  キーワード	急性期班では「回復期が必要」、回復期班では「急性期が不足」との意見が出た。意見交換では、急性期に患者が滞留すること、出し先がなく困っている急性期側と、提供する医療の内容的に受けられない慢性期の間で、需要と機能のギャップがあることは意見が一致  ①急性期からの出し先がない ②急性期の需要と慢性期の機能のギャップ ③回復期は不足？ ④地域包括ケア病棟が重要
南多摩  キーワード	「圏域内の各市の特性を踏まえた議論の必要性」、「市を越えた情報共有や多職種連携の必要性」、「各市の回復期病床の過不足感」の三点については意見が一致  ①圏域内の各市の特性を踏まえた議論 ②市を越えた情報共有や多職種連携 ③各市の回復期の不足感を踏まえた議論
北多摩 西部  キーワード	急性期班では「全機能で不足している。精神科も足りない」、回復期班では「現状適正であるが、将来的には回復期が不足するのでは」と、不足する機能についての認識が異なったが、議論により認識を深められなかった。  ①急性期班の認識として「全機能で不足」 ②回復期班の認識として「現状は適正(将来、回復期が若干不足)」
北多摩 南部  キーワード	急性期班からは「サブアキュートや在宅の充実が必要」、回復期班からは「慢性期の病床が不足」との意見があったが、議論により認識を深められなかった。また、共通認識を深めるために、調整会議を補完する回数を増やした継続的なグループワークが必要との意見もあった。  ①「サブアキュートや在宅の充実が必要」との急性期班の認識 ②「慢性期の病床が必要」との回復期班の認識 ③調整会議を補完する継続的な会議
北多摩 北部  キーワード	「医療機能のバランスがとれていて、連携もうまくいっているということ」、「将来的にも医療区分2、3に対応できるような慢性期が必要」という2点で意見が一致。 また、個別には在宅医のレベルアップも必要との意見があった。  ①医療機能のバランスが取れている ②連携がうまくいっている ③在宅医のレベルアップが必要